

令和5年度第2回倉敷市図書館協議会議事録（要旨）

開催日時 令和5年12月19日（火）14時00分～15時30分

開催場所 倉敷市立中央図書館 3階研修室

協議事項 倉敷市庁舎等再編基本計画（市民交流ゾーン整備編）（案）について

出席者 委員： 玄馬委員、佐藤委員、津田委員、中川委員、野口委員、橋本委員、
藤井委員、森脇委員、山下委員（9名）（50音順）

事務局： 森生涯学習部長、梶田中央図書館長、長野中央図書館課長主幹、
小川中央図書館課長主幹、奥田中央図書館長補佐、姫井中央図書館
主幹、原田水島図書館長、藤田児島図書館長、岡田玉島図書館長、
丸谷船穂図書館長、石井真備図書館長、香西中央図書館主任、田中
中央図書館主任（13名）

欠席者 山邊委員

傍聴者 5人

議事録

1 開会

2 生涯学習部長あいさつ

3 事務局説明

4 議題 倉敷市庁舎等再編基本計画（市民交流ゾーン整備編）（案）について

（委員長） 「中央図書館を核とした複合施設棟」の基本計画の案が示されています。コンセプトについては、令和5年2月の図書館協議会に示され、皆さんで協議したところです。基本計画案の16ページからそのまとめが記載されています。16ページを開けてみてください。

また、すでに市民の皆さんに、パブリックコメントを募集されています。おそらく、100人の市民がおられたら、100通りの意見があったのではないかと思います。我々、図書館協議会としても、新しい施設を今後多くの市民の皆様幅広く使っていただくために、どのようなものがよいのか、しっかり意見を出していきたいと思います。そして、図書館協議会としての意見をぜひ、整備の参考にしてもらいたいと思いますので、みなさん、今日は忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

それでは、まず、本日協議する基本計画案について、事務局からこれまでの経緯を含めて、説明をお願いしたいと思います。

～基本計画（案）についてスクリーンで説明～

（委員長） それでは、早速ですが委員の皆さんからご意見をお願いします。

21ページからの図書館機能の部分について、記載に沿って各委員さんのご意見を伺うという方法で、進めてまいりたいと思います。あらかじめ提出していただいている意見を中心に発表していただきます。まず、21ページに記載されているレファレンスカウンターについてのご意見を、■■委員からお願いします。

（■■委員） 子ども室では、カウンターで保護者の方が相談されている姿をよく見かけます。子ども室については、資料や、絵本、おすすめの本について相談できる場所が身近にあります。

一般の方は、市外からも研究や調査のために来館される方が大勢いると聞きました。現在、レファレンスのカウンターは3階にあるそうですが、頻繁に本を借りたり返したりする中では、立ち寄りにくいものがあるかと思えます。市の歴史とか文化、郷土資料の充実とともに、レファレンスカウンターが立ち寄りやすい場所にできたらいいと思います。

（委員長） では、同じページの地域資料に関するコーナーです。郷土資料については、現在は1階のガラスケースなどで展示をしています。貴重な資料は、市民に公開してこそ保存の意味があると思います。これまで発信できていなかった貴重な資料を展示できるスペースも必要であると思います。

■■委員、高校生にとって、何か学習に利用できることがありそうですか。

（■■委員） 高校生は、現状では、郷土資料の活用というのはあまりできていないと思っています。小学校では、学習指導要領の中に地域のことを学ぶ、とあります。高校の場合は、地歴公民の地理で地域調査が少しありますが、なかなか地域資料にまでたどり着くことはありません。地図等で地域調査することが多いと思います。いわゆる課題研究ということで、各学校が探究的な学びをしていますので、そういった意味では、高校生が、地元のことを色々と調べていくということでの活用、ということがあると思います。地域資料の難し

さというのは、かなり専門的なものになると、古文書が読める、などということも必要ですので、通しでは中々読めないものもあります。高校生が読めるような資料を充実させていくことが大事であると思っています。また、地域資料をどういうふうに展示するかということも大切です。歴史的に並べるなど、色々あると思いますが、場合によっては「人」、倉敷には色々有名な人もいますし、まだまだ発掘できる知られざる有名な方もいると思うので、そういった「人」というところに焦点を当てて展示するのもいいと思います。

(委員長) 非常に貴重なご意見で、これを参考にしたら、すごくいいものができそうだという気がしました。それでは、美観地区や観光客との関連からのご意見を■■委員から伺っていますのでお願いします。

(■■委員) 新しい施設ができるということなので、観光の一つのスポットとしての役割というものもあると思っています。先ほど■■委員が言われた通り、何か展示のような形で、美観地区に来たついでに、いわゆる観光の一部としての位置付けを今後PRしていけば、より観光の活性化というところにも繋がるのではないかと、という提案です。

(委員長) 今でも、観光客の方が来られて、調べ物をしてから移動する、ということがありますが、これをきちっとした形でできれば、これもまた大きなプラスになると思います。この情報を全国にいろんな形で、観光の方からも出していってもらえれば、とてもいいものができるのではないかと考えています。倉敷の歴史を、多くの人に知ってもらえる場になればということで、次に、22ページの子ども図書室の充実について、「0歳からの子どもと保護者が、音や声を気にせず、楽しく安全に本に親しめるような空間を整備します。」とありますけども、この部分について、お願いします。

(■■委員) 音や声を気にせず、楽しく安全に本に親しめるということで、親子で来られる方が楽しめる場が一つできるのかな、と思っています。それに加えて、複合施設ということなので、そこで知り合った方、初めて会う方が、同じような本を読んでいるな、同じような年齢のお子さんだなということで、お母さん同士が繋がるような場になればいいと思っています。複合施設ということを利用して、そこからカフェへ繋がるような場になったらありがたいと考

えました。

(委員長) 子どもたちから見た施設ということでも、ご意見を伺いたいと思うのですが、けれども。

(■■委員) 0歳児や1歳児は喃語が始まっていますので、静かに、と言っても声が出たり、「わんわん」と言いながら読んだりします。そういうことを気にせず、声を出してもよく、楽しく本に触れられる図書館、図書室があると、うれしいと思っています。保育園の中にも、もちろん蔵書はあるのですが、それ以上に、とても素敵な宝物が詰まった場所、こういった公共の場所に保育園とか幼稚園の子ども達も気にせずうかがえるような、そういった図書室であってほしいです。それから、入ったときにホッと寛げるような温かい雰囲気のある図書室で、親子で触れ合いや、子ども同士が楽しく本に触れられるような、そういった図書室になってほしいというのが希望です。

(委員長) 私は、ここの委員を数年させていただいていますけれど、日本一の子どもの図書館を作っていくというのが、ずっと言い続けてきていることです。子どもも少なくなっているし、これから社会を背負っていくのも子ども達です。そういう中で、声を出して遊んでもいいし、そこで何か学べる、というような空間というのが、最高だと思います。私は、実は中央図書館で以前2年間、館長をしたことがありまして、その時に全国あちこち図書館を見に行きました。その時に、それに近いような図書館が関東の方にあり、「これはいいな」というのがありました。そういったものを超えるようなものが、できたらいいと思いますので、さきほどの意見は非常に貴重だと思います。それでは続いて、ハード面からの子ども室の位置などについて■■委員からご意見をいただいています。

(■■委員) ハード面ですが、今の子ども図書室は一番奥手にあります。できれば新しい図書館では、入口付近にしてほしいと思っています。理由としては、ベビーカーの問題とか、子どもが騒ぎ出したときに外に出られる、とか、後は、子どもの本というのは大人の本に比べて、大型のものが多いため、あれをたくさん抱えた子どもたちが奥から手前まで行かないといけないというのは、ちょっと大変と思うので、子ども目線で、できれば入口付近に作ってもらえ

るとありがたいという意見です。

(委員長) 他にも何かありますか。

(■■委員) 賑わいが出るのだろうなと思っています。入口に子ども達がワイワイして
いて、「何だろう、ここ」というような、そういう賑わいが出てくる。図書館
に賑わいが必要かどうか、というのはあるのですが、静かにしている図書館
もいいですけど、外から来た人から賑わっている場所が、そこに見られる。
そういう姿というのも一つのPRの材料になると考えています。

(委員長) 次に、利用者の多様なライフスタイルに沿った本との出会いの提供につ
いてですが、■■委員は社労士で労働の専門でもありますので、ビジネス支援
コーナーについてなど、ぜひ、ご意見をお伺いしたいと思います。

(■■委員) ビジネスコーナーについてですが、私は社会保険労務士ということで、法
律の専門家として活動しているのですが、やはり色々な資格の本とか情報は
最新のものがすごく必要になってきます。そういった情報をしっかり整備し
ていただきたいと思っています。

(委員長) その他何かありましたら、どうぞ。

(■■委員) ICTについてですが、これからを背負っていくのは若い方で、彼らはデ
ジタルネイティブですので、そういった世代の方のライフスタイルに沿って
いて活用しやすいもの、という意味で、ICTを進めていただくのは、すご
くうれしいと思っています。

(委員長) 次に滞在型図書館としての心地よい空間づくり、についてですが、この部
分は、委員の皆さんが特に関心を持たれた部分のように思います。実は、参
考となる写真を提供していただいています。皆さんで共有したいと思います
ので、写真の解説をお願いできますか。

～委員から提供された写真をスクリーンに投影～

(■■委員) この夏休みに、中学生14人引率をして、クライストチャーチ姉妹都市へ
生活体験に行ってきました。私自身もホームステイをさせていただき、古く
からの友人に色々連れて行ってもらいました。奇しくも図書館を色々と見せ
ていただく機会があったので、ここで写真を紹介しようと思います。

会う人ごとに「図書館を見てきたか」「図書館に行ったのか」と言われまし

た。地震でこの辺りはずっと壊れてしまったのですが、新しい図書館がやっとできました。その新しい図書館というのが、本当に市民のみなさんの自慢であり誇りであり、すごく親しみのある場所なのかなということを感じました。

《写真1》 これが外観です。

《写真2》 中は空間が贅沢に使ってあって、入口からすぐ上に上がれる階段の真ん中にあるのは、マオリの、ニュージーランド原住民の作品があって、中にも本がたくさん使われています。これは子ども室の所です。折角だから子どもの本を持って写真を撮ろう、と思い、一緒に撮らせてもらいました。

《写真3》 特集の展示コーナーというのも、あちらこちらに何か所がありました。季節のものや、年中行事に関する本を、見やすい所に展示していました。

《写真4》 これは子ども用の本が並んだ所です。低い所に全部展示してあって、子どもがすぐ手に取って見られるようになっています。

《写真5》 これは「絵本の福袋」で、何冊かまとめて、ちょっとヒントが書いてあって、というのが、倉敷の図書館と同じやり方だなと思いました。こちらは中が見えていますけれど、何冊かまとめて「ニュージーランドの作家の作品」とか、「キャッツアンドドッグ」といって犬や猫が出てくるお話を3冊まとめました、とか、「カラーズ」で、色やクレヨンのお話がありますというような、まとめて一緒に見ませんか、というような感じで、倉敷と同じようにしている気がしました。

《写真6》 CDとかDVD等もあって、それも貸出しができるようになっています。

《写真7》 大学受験用というか、高校生が卒業する前にみんなが同じ試験を受けて、習熟度によって何点取っていたらこの大学に行けるか、というような試験があるのですが、それ用の参考書が、体育だとか、バイオロジー、ケミストリー、サイエンスなど、それぞれの参考書が並んでいました。

《写真8》 色々な雑誌がすぐ手に取れるようにたくさん並んでいました。それから、これはいいなと思ったのは、図書館の中に利用者のロッカーがあって、ナンバーを入れて預けられる、大きな荷物を持たずに本を探したり、勉強したりできるようなロッカーが設置されていました。

《写真9》 自動貸出・返却もできるような、ICTの機械もありました。

《写真10》 マンガのコーナーでは、日本のマンガが色々紹介されていました。

《写真11》 滞在型ということですが、本当に広い空間の中で、こうして子ども達が色々な遊びができます。

ここは、レゴですけど、子どもに限らず大人も一緒になって、こうして広い所で一緒に楽しく遊んでいる空間がありました。それから、おもちゃがたくさんあったり、チェスをしたりできるコーナーもありました。倉敷は大山名人のこともあるので、倉敷だったら将棋かなと思いました。

《写真12》 ちょっと珍しいと思ったのが、遠くに白雪姫が見えたので近寄ってみると、色々な物語のヒーローに変身できるコーナーがありました。子どもがここに来て着替えては奥の鏡に映して、なりきっていました。

《写真13》 レゴばかりではなくて、色々なパズルだとか、木の温かみがあるおもちゃがたくさんありました。それから、サッカーのゲーム機もあちこちの図書館にありました。

《写真14》 図書館の中にもカフェがあります。

《写真15》 これは、また別の図書館です。さきほどのものは、市の中央図書館なのですが、これは棧橋の近い所にある小さな図書館です。それぞれの地区にそれぞれの図書館があって、身近なところでも図書館に親しめるという感じでした。

《写真16》 同じように、貸出・返却や、検索ができるものがあります。

《写真17》 こちらも子ども用のコーナーで、おもちゃもいっぱいあって、奥にはちょっとイベントができるようなスペースもありました。親子でゆっくり遊べるそうです。

《写真18》 子どもも、こうしてゲームをしたり、本を探したりしています。

《写真19》 これが奥のスペースです。ちょっとしたイベントができるような所で、少しぐらい音楽をかけても、声が出て他の所の迷惑にならないです。

《写真20・21》 それから、たまたま大学の図書館にも連れて行ってもらいました。こちらは、市民が気軽に立ち寄るというよりは、学習のため、勉強のため、という所でした。広いスペースに、ゆったりと並んだ所でした。

《写真22・23》 こちらがカウンターです。本もぎっしりと。これも展示のコーナーで

す。

《写真 24》 あと、3～4人でグループ学習ができるような個室がしつらえてありました。飲み物とか食べ物も持って入ってもいいのですが、匂いがきついものとか、こぼれる心配があるものはダメです。

《写真 25・26》 高層なのですが、それぞれの階に本が、ぎっしりあります。日本の本も、たくさん並んでいました。日本人の訳も、特に日本と中国とか、日本語で書いてあるコーナーがありました。

本当に、本を借りるから、というだけでなく、ちょっと図書館に行こうかという感じで、みんなが気軽に寄れる場所です。子どもが休みの日に保護者と一緒に楽しんで来るので、子どもの時から通い慣れている場所になっていくと、大人になっても、敷居が高くて「図書館？真面目な勉強する所？」というのではなくて、ちょっと行ってみるかという感じで行けるかなという気がしました。

(委員長) 滞在型図書館のイメージがよく分かりました。日本語の本はどのくらいあるのでしょうか。

(■■委員) 日本語の本は、マンガのコーナーの本が多かったです。

(委員長) 今の写真を見て、みなさんからもいろいろご意見をいただきたいと思います。

まず、■■委員、どのように感じられましたかね。

(■■委員) 感動しています。そんな図書館がある都市と、倉敷市が姉妹都市ですので、ぜひ学んでほしいと思いました。

感想といえば、小学校でも中学校においても、「非認知能力」が、話題として、キーワードとしてあります。何となくいいかな、とか、何となくこれ、がんばってやれそうだな、というような力が子どもにもあるはずだから、それを掘り起こしてあげよう、そこをうまく伸ばしてあげようということです。図書館は勉強する所とか、静かに読まなければいけない所、という常識を、倉敷市がとっばらってほしいなと思います。

そのポイントとなるところは、遊びであると思いました。将棋もあり、レゴもあり、パパとママとぼくとで一緒に同じ遊びができる空間で過ごす、小さい頃にそういうことがあるのは、とてもいいと思いました。そういう経験

を持って、例えば中学生がグループ学習をしようという時に、図書館のスペースで、3人でこの宿題をやろうとか、今度のグループ発表のときの準備をしよう、とかいう時に使えると、とてもありがたいと思いました。

(委員長) ■■委員は、セミナーの講師などをされていて、「大人の学び直し」という面からも、いろんなご意見をお持ちとうかがっています。今の資料を踏まえて、ご意見をお願いします。

(■■委員) すごく素敵だと思いました。こういう場があればいいと感じました。大人の学び直しというのは大事で、探求の時間というものが必要と思っています。その時に、やっぱり遊び的な要素があるといと思っています。先ほどのような形で、木があふれているなど、リラックスしながら、いろんなことを対話の中で学べる場があれば、大人もいろんなワークショップができます。「えんたくん」(注：円型の段ボール)で、段ボールを膝に乗せてワークショップをするとか、あと、フィッシュボーンみたいな形で、会話の中に手を挙げて入ってくるとか、そういう動きとか遊び心のあるワークショップができると、すごく楽しいと思います。

(委員長) 本当に楽しみながら、そういう空間に居れて、なおかつ、本物が学べるのが図書館の非常にいいところだと思います。

今もすでに、子ども向けに、いろんなことをしています。私事ですが、昔、昆虫の採集をしていて、それをどうというふうには標本にするか、というのも図書館でやっていていただいて、私がついていくという条件で、小学校3年の時から長男を行かせてもらいました。実際に行ってみると、本物を教えてくれるものですから、学校に提出しても全然違います。子どもは、それがうれしいものだから、どんどんまた先に勉強していきます。今でもたくさん標本箱を持っていますし、未だに、どこかに出かけたときに、採ってきたものを変えていくというようなことをやったり、そのときに学名とかも調べたりしますので、それがすごくいい勉強になります。だから、楽しみながら、かつ、そういうホームワークをやっていくことに図書館の大きな意味があると思いました。

それでは、次に■■委員、子どもたちが過ごす空間として、写真を見られ

て、どのように感じましたか。

(■■委員) 自分も行ってみたいと思いました。環境がとても保育園に似ていると思いました。保育園では保育士さんがいて、園の中におもちゃがあり、安心できる、わくわくするような環境の中に絵本もあって、自分の好きな絵本を選んで楽しめます。先生に読んでほしかったら、お昼の時間に読んでもらう。同じような感じの空間が先ほどのニュージーランドの図書館にも見えました。声を気にせず、音を気にせずに過ごせる環境の整備ができれば、図書館が企画された行事の中に、遊びを取り込んだりもできます。もし、お父さんやお母さんと赤ちゃんとその兄弟が一緒に、赤ちゃんが絵本に飽きてしまったときにも、赤ちゃんはおもちゃで遊び、大きいお子さんは絵本を楽しむなど、図書室自体が、本当に子どもたちがわくわくするような空間になって、とてもいいと思いました。

(委員長) 大きい子が小さい子の面倒をそこで見るなど、そういうものが本当にすばらしい空間でないかなと私は思います。それでは、ほかに皆さんに少しずつご意見を伺いたいと思います。

(■■委員) 子どもたちが自由に活動できるような場というのは、やはり保証されるといいと思います。いろんなことを試せる場所、そういうワークショップが必要だと思います。

子ども室で、私は科学遊びをしています。自由に電源が使えたり、水回りが使えたりするような整備がされていると、子どもたちが科学の本を見てやってみたいと思った時に、すぐにできるような環境があるといいと思います。実際に実験してみると、ほんとに目がキラキラ輝いて、付き添いの親のほうで夢中になってしまうような要素が科学学習の中にはあります。そういうことを通して学んでいける、また新しいことにも挑戦していける、大きな声を出しながら、感動を共有しながら、というような場があるのは、とてもいいことだと思います。

(委員長) それでは続いて、■■委員、お願いします。

(■■委員) すごく明るくて、子どもたちが好きな空間だということを感じました。図書館という堅いイメージではなくて、その場所に行くことが一つの目的とい

うか、楽しくなる、そこで周りに本がある環境で、いろんな本を選んだり、遊んだりしていく中で、自然に本に触れて、本が好きな子どもたちが小さい頃から育ってくるというのを感じました。

たくさんの本に触れていくと、その中で、自分は自然が好きだとか、虫が好きだとか、いろんなところに興味を持って行って、そこを研ぎ澄ましていくとか、どんどん興味が伸びて行って、深く学んでいける場にもなっていくのではないかなと思い、少し自由度がありながらの、素敵な図書館になるといいというふうに見せていただきました。

(委員長) 行って本を借りて帰りますというだけではなく、やはり滞在型というものも、これも一つの大きな意味があるのだろうというふうに思います。■■委員、お願いします。

(■■委員) みなさんと一緒ですけれども、本当に今は、図書館というのは静かなところで、お話ししたりしたい人はこちらの方へ、というのですが、これが逆転して、にぎやかな図書館で、静かに本を読みたい人は、ここで本を読めますよというような、大きな発想の転換になるような映像を見させていただきました。

(委員長) ■■委員、お願いします。

(■■委員) ちょっと、水を差すようなことを言うてしまうのですが、図書館の機能について話をしている中で、どうしても児童センターや児童館の役割であったりとか、いわゆる保育施設のような機能を求めているような気がしています。また27ページのところまで議論がいくのかは分からないのですが、蔵書冊数が48万冊という計画になっていますが、今の中央図書館には51万冊の所蔵がある中で、では3万冊は他のところに送るのか、そもそも図書館として、そういう資料収集機能を充実させていかないといけない中で、スペースの有効活用を、そのときに遊び場をどこまで作ってしまうのか、それによって、また蔵書冊数が減ってしまうというのは、ちょっと図書館としては、いかがなものかなともものすごく感じるところです。

例えば、先ほど■■委員が見せられたものは、複合施設としての子どもの遊び場なのか、図書館の中にある一部分なのかというのは分からないのです

が、24ページのところで、市民活動センターなどの機能といった時に、例えば、市民活動ですとか、憩の家といったところで、遊びの何か道具のようなもの、囲碁将棋が憩の家機能のところにあったり、また、市民活動センターで、リスクリングといった時に、お母さんが子どもを連れて来て、ここで何か学習したり活動したりということを求められる、おそらく図書館だけにここは限定しない、いわゆる複合施設全体に、そういう空間が必要になるかと思っています。個人的には、できれば複合施設全体の話として、今、アイデアというのを募集していただいて、蔵書冊数というのが48万冊というのが不満はあるのですが、そこに関しては、スペース的に仕方がないのではと思います、図書館として、もう少し考えてもいいのかなとは思いますが。

(委員) 今、写真の中でご紹介したのは、図書館の中でのスペースです。ただ、これをそのまま倉敷市にもってくるのではなくて、図書館を核とした複合施設なので、憩の家の機能を利用する方々が、子どもが遊んでいるスペースを通過して移動をするとか、全然違う世代の人が出会える場所を意図的に作ってやる方がいいのではないかな、それが複合施設の良さではないかなと思います。

子育てに疲れたお母さんが、ぼーとしているところで、子どもがわーわー遊んでいるところを、おじいちゃんおばあちゃんが、「ああ、かわいいな」とか言ってくれたら、疲れているお母さんも「かわいいと言ってくれている」とホッとしたり、おじいちゃんおばあちゃんも、子どもを見たら元気がでたり、というようなコンセプトの出会い、それが意図的にできるような施設になればいいかなと思いました。

(委員長) いろんな意見を出していただいてありがとうございます。さっきおっしゃられた、図書館の冊数というのは、非常に大きなものだと思います。予算の方もありますので、がんばっていただきたいというように思います。種類の問題と冊数の問題とかがありまして、県立図書館は種類がすごいです。これはあそこが一か所だけだから可能なのであって、倉敷市はいくつかの図書館がありますから、同じものをいくつか買って貸し出しをする、そういうことがあったりします。

だんだん、いろんな形でイメージが広がってきているようなのですけれども、次にありました、ICTを活用したサービスの提供と電子図書についても見ていきたいと思います。まず、■■委員からのご意見の中に、デジタル教科書と
1 いうのがあって、今、学校教育では、そこまできているのですか？

(■■委員) 例えば英語や数学のデジタル教科書を、すでに中学生は使っている部分があります。生徒の方にどちらがいいかと聞くと、大体半々で、紙の方がいいなどいう子もいますし、いやデジタルでないといけないという子もいます。教員の方も一緒です。デジタル教科書が授業で使えないと、もう授業なんてできませんと言う先生もいます。おそらく、この議論はこの先ずっと続くのだろうと思います。そうなったときに、さっき説明のあった電子図書が、いわゆる公共図書館で利用できるということは、活用しやすく便利だと思います。

それから、スペースのことですが、もう6,800平方メートルは決まっているので、あんな素敵なクライストチャーチのような複合施設の図書館にするには、仮に保存をするスペースがなかったとしても、そこをしっかりと押していきたいのならば、冊数の点では、電子にすれば収納スペースとかも、ずいぶん変わってくるのではないかと思います。

(委員長) 大学では、どうでしょうか。■■委員、いわゆるデジタルは、どんなのですか。

(■■委員) 大学は、正直なところ、あまりデジタルは進んでいません。そもそも、デジタル教科書は、小・中学校の話になってきますので、大学で使っているテキストは、あまりデジタル化されているものはないです。ただ、レポートを書くときには、当然パソコンを使ったりはします。デジタル教科書の活用によって、その教科が好きになったとか、子どもたちがより勉強をするようになったということが、文部科学省の報告で書かれているのを見ましたので、そういう意味では、大学の方も前向きに。図書館にそういう環境があれば、ものすごくいいだろうと思いました。

(委員長) ■■委員は図書館職員が働く環境からも、ICTの導入に賛成と書いてありましたが。

(■■委員) 私は、就労支援ということで、企業さんにお話をお聴きすることがあるので

すが、採用、ということが、すごく難しいというところがあります。人も減っていく中で、どうやって図書館をより利用しやすく、そして、働いている人も働き甲斐をもって働けるかという部分で、人がするところと、ICTに任せるところ両方で進んでいくのが、すごくいいと思います。

(委員長) 次に24ページなのですが、ボランティアや市民団体との協働について、よろしいでしょうか。

(■■委員) ボランティアで、いろいろなイベントを企画したりするのは、とてもいいことだと思っています。そういう時に、先ほども実験とか言いましたけれども、やはり、イベントを想定した電源とか水回りとか、そういうのはしっかり組み込んでいただきたいと思います。実は図書館で、ポットを2台持ってきて沸かしたらショートしました。元々そういうために作ってはいないからと言われたのですが、やはりイベントなどを企画する前提があるならば、しっかりした電源や水回りを便利にしておくということ、もちろん、トイレとかもあると思うのですが、そういうことまで考慮にいれて作っていただければいいと思いました。それから、やはり経済的な予算とかもあると思うのですが、ボランティアも無償でがんばって協力しているので、ぜひ、いろんなイベントをさせていただきたいと思います。

(委員長) ありがとうございます。

(■■委員) ボランティアで、図書館で活動されているグループは、たくさんあると思います。何かスペース的に共有できることがあって、情報交換ができる、会を催して横のつながりを持ちましょうと言うと、ちょっとしんどくなると思うのですが、こんなことをしたら子どもが喜んだよとか、私たちはこんなことをしましたよとかいうような、伝言板みたいなスペースがあれば、ボランティアとしてはうれしいと思いました。

(■■委員) ボランティアはいろんな道具があり、それをずっと歴代保有していて、整理しながらお互い持っているのですけれど、やはり、ボランティア室みたいなものが一つあって、そこに掲示板が置かれたら、今みたいな交流もできるし、お互いに使い回しじゃないですけど、そういうこともできると思います。ボランティアの仲間では、一部屋でもいいから、そんなスペースを作っていただきたい

いと思っています。

(委員長) ご意見ありがとうございます。

それでは、まだまだ色々お伺いしたいところではあるのですが、次に学校と園との連携支援の強化ということで、ハード面、ソフト面のどちらからでも結構ですので、委員から一言ずつお伺いしたいと思います。

(■■委員) 学校では、キャリア教育も進んでいます。そういった面で、子どもたちは委員会活動として、図書館の仕事などもしているので、図書館司書の体験みたいなこともできたら、ありがたいと思っています。それから、子どもたちが作った作品の展示など、今でもありますが、子どもたちも親と一緒に見に来る機会などもあると思います。

(■■委員) 小学校と中学校と高校には、学校図書館というところが中心としてあるので、そこの情報の共有とか、いろんな形での図書共有、今、現在もしていますが、あのような形が続けばいいと思います。スペースのこともあることで、中学生の学びの場を、ここへたくさん設けて欲しいとは言いません。

(■■委員) 学校には学校図書館があります。それに対して、この倉敷の公共図書館にも、高校生たちがいろんな意味で足を運べるようなスペースがあったら、その中で本を見つけて、新しい発見ができたらいいいと思っています。

(委員長) 次に25ページの他の機能として、賑わいの創出というのがあります。先ほどからいろんな意見をいただいています、何か他にありますか？

■■委員、BGMがいいのではないかと、静かなスペースの方向性についてとか意見もあつたりするのですが。

(■■委員) 先ほどのクライストチャーチは写真だけだったので、足りないところは音楽だったのでは、と。BGMが流れる中で、わが家じゃないという感じはしますが、例えば、先ほどの活動グループの方々がスタジオを借りて、そこで音楽の練習をしている、その音が心地よく図書館に響いているとかいうような環境も、もしできるのだったら、夢のようなことですが、いいかなというように思ったりしています。倉敷、音で売ってもいいかなと思います。

(■■委員) クライストチャーチの図書館も、入口のホールには、大きなスクリーンがあつて、動画と音楽も多分流れていたと思います。

(委員長) ■■委員、何かありますか。

(■■委員) 図書館は一人で行って静かに本を読む、という発想から、これからの図書館は複数で行ったり、みんなで本を囲んでいろいろ話をしたり、というところがある、と。先ほども話したように、図書館として必要な資料や、必要な本はあるし、静かに読める場所もある、というのは、今の図書館とは逆になるかもしれませんが、そういった図書館ができればいいと思います。

(委員長) せっかくなので、歴史民俗資料館についても、みなさんのご意見を聞きたいと思うのですが。歴史民俗資料館に、みなさん行かれたことがありますか？役所の駐車場のところにある、昔の幼稚園なのですが。ちょっと写真を見てみましょう。

～スクリーンに歴史民俗資料館の写真を提示～

何か、こんな風にしたらいい、などありますか。

(事務局) 真ん中に八角形の遊戯室があります。元々、倉敷幼稚園の園舎として使われていましたが、解体を惜しむ声が多く、市役所の隣の位置に復元、移築されている建物です。八角形のところが遊戯室で、その八角形の遊戯室を中心に、両方に翼のように外側に向けた開放廊下があります。これも取り入れて計画をしていますので、何かご意見がありましたら。

(委員長) 何でも結構です。■■委員。

(■■委員) 同じような施設で、岡山市に、これを児童館として使っている施設があったなというのを思い出しました。本当にそこも、文化財になっていて、その中にレゴやおもちゃがあって、子どもたちが遊んでいる、そういう活用の仕方もあるのかなと思いました。元幼稚園ですから、そういう子ども向けの施設になっているのだろうなと思いました。

(委員長) 他にどうぞ。何でも結構です。

(■■委員) 子どもたちが過ごしたところなので、子どもの声がぜひ響いてほしいと思います。子どもたちがここで少しでも体験ができるように、今展示している広いホールで、小さなコンサートや、読み聞かせなどを見させていただいたり、子どもたち自身が歌ったり。文化財なんですけど、子どもたちが作ったもので資料館を展示会みたいに飾ってみると、親も一緒に見に行けていいと思います。

さくら幼稚園さんは128年前に作られたものとは思いますが、通えるようになると子どもたちを連れて行けるので、ぜひ、子どもの声が聞こえる場所にしてほしいと思っています。

(委員長) 時間もちょうど来たようなのですけれども、本当に皆さんからいいご意見をいただきまして、事務局の方もこれを踏まえてよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

(■■委員) 私も、本当にクライストチャーチの図書館は、すごいなと思って帰ってきました。せっかく姉妹都市という縁があるので、何か関連したものが倉敷にもできて、お互いに交流できるようなイベントもできるようになればいいなと思います。ありがとうございました。

(委員長) 今日は、いろいろなご意見を聞かせていただきました。本当にありがとうございました。また、傍聴に来られている方もありがとうございました。マイクを事務局にお返しします。

5 閉会 中央図書館長あいさつ

以上の議事録を、令和5年12月19日開催の令和5年度第2回倉敷市図書館協議会議録（要旨）とすることに同意します。

令和6年2月6日

倉敷市図書館協議会

委員長 玄馬 正雄

